

2024年度 北海道大学大学院 文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	☒ 一般入試 ☒ 外国人留学生特別入試 ☐ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（映像・現代文化論）
出題の意図	問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。 問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。 (A) 日本近代文学における日記体小説をめぐる考察に関する問題 (B) 映画俳優の演技をめぐる考察に関する問題

2024年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 映像・現代文化論 全7枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 7枚、解答用紙 4枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
 - ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。
-

問題Ⅰ

次の1～5の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各400字程度）。

1. 日本近代文学における障害者表象について具体的な作品を挙げて説明せよ。
2. 前田愛の『都市空間のなかの文学』（1982年）の方法について説明せよ。
3. 日本近代文学において映画・映像との関わりの深い作品を一つ挙げ、その意義について説明せよ。
4. 映画配信サイトの林立により、一般的な映画鑑賞体験がどのように変わってきているのかを説明せよ。
5. ドキュメンタリーにふさわしくないと考えられている映画技法について説明せよ。

問題Ⅱ A

次の文章は、山口直孝『「私」を語る小説の誕生——近松秋江・志賀直哉の出発期』（翰林書房、2011年）の一節である（設問の都合により、一部を省略した）。(1) この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。(2) この文章を踏まえ、日本近代文学における日記体小説の様式について、具体例を挙げながら論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

＊ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典

山口直孝『「私」を語る小説の誕生——近松秋江・志賀直哉の出発期』、翰林書房、2011年、224-228頁。

問題Ⅱ B

次の文章は、北村匡平「芸の怪物——映画女優としての杉村春子」（『悲劇喜劇』2020年1月号）の一節である。(1)この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。(2)映像的なイメージに富む映画俳優の具体的な所作について、ひとりか数例を挙げて説明しなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

＊ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典

北村匡平「芸の怪物——映画女優としての杉村春子」、『悲劇喜劇』2020年1月号、早川書房、2020年、42-45頁。

